

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年2月28日

事業所名 鼓ヶ浦つばさ園 放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		施設、設備は適正な基準を確保しています。	基準に適合したスペースを確保していますが、利用者の状況に合わせて、備品等の設置場所や車椅子は別の部屋に置く等の対応をしています。
	2	職員の配置数は適切である	○		職員は適正な基準を確保しており、直接処遇職員として看護師、保育士、作業療法士、及び言語療法士を配置しています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		室内は完全にバリアフリー化されており車椅子対応がなされています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		職員面談により、個々の職員の目標管理を実施しています。	全職員で支援目標を共有し、常に業務改善に努めています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		毎年1回の保護者アンケートを実施し、いただいたご意見を業務改善に反映しています。	令和元年度に実施した保護者からの事業所評価結果及び事業所における自己評価結果は、園内の掲示板及び法人のホームページで公表しています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		自己評価結果については、H29年度より公表しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者評価は受審していませんが、法人内に設置された苦情解決委員会で第三者委員のご意見を頂いています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人内研修や外部の階層別及び専門別の研修に、計画的に参加しています。	法人内の内部研修(院内感染対策、虐待防止研修等)、外部研修(全国職員研修、児童発達支援管理責任者更新研修、看護保健担当職員感染症対策研修、介護職員等による痰の吸引等の実施研修、山口県医療的ケア児支援者研修等)に参加し、職員の質の向上を図っています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		6ヶ月に1回個人面談を行い、支援計画に反映しています。	年2回のアセスメントを行い、日々のケース記録に基づいて、職員全員で利用者の状況を協議し、個別支援計画を作成しています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		主治医から医療的ケア指示書、健康管理表を保護者から提供していただき、子どもの状況を把握しています。	共通のアセスメントツールを使用し、その都度利用者の状況把握に努めています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		活動プログラムの立案は職員全員で行っています。	レクリエーション研修に参加し、それぞれの利用者の状況に適したプログラムを作成しています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎月の活動計画を基に、当日の利用者の状況に合わせて活動内容の工夫をし、季節行事等をたてています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		保護者のご要望により、平日はリラックスのできる個別活動を取り入れ、長期休暇中の午前は個別活動、午後はゲーム等集団で楽しめる活動を取り入れています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		利用者ごとの医療的ケアをふまえた個別対応を基本として、個別活動及び集団活動を組み合わせ計画を立てています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		事業開始前、当日利用者の医療的ケアに関する確認、活動内容及び個別課題を職員全員で確認しています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終了後に作成する個人ケース記録をもとに、その日の気づきや改善策を職員全員で共有しています。	毎日の振り返りを行い、次の療育につなげるように努めています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個人ケース記録を作製して職員全員で検証して改善策を話し合っています。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に1回個人面談を実施しています。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		利用者の状況に合わせて組み合わせ、支援を行っています。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が出席しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		日々の送迎時に直接学校との情報を収集しています。必要な場合は「その都度学校訪問」をして情報収集に努めています。	学校との連絡調整をきめ細かに行き、情報収集に努めます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		同敷地内にある当法人の医療機関と連絡体制をとっています。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		利用者全員が同一事業所内の児童発達障害センターの卒園生であることから、情報共有などに努めています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		移行支援会議の参加や移行する事業所に訪問して情報を提供しています。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		事業所内の児童発達支援センター及び法人内の総合相談支援センターとは、常に連携が図られています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		利用者は医療的ケアを必要とする重度心身障害児であり、利用中は休息を重視したいとの保護者からのご要望により、他の放課後児童クラブ等の交流はありません。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		周南市自立支援協議会教育部会に所属しています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		面談、送迎時や連絡帳で情報交換を綿密に行っています。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			送迎時を利用した懇談などを活用し、保護者が悩みを相談しやすい環境づくりに配慮し、子どもに向き合う保護者の支援に努めます。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用開始前に個別に重要事項説明書及び契約書の内容を説明しています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者からの相談内容は職員全員で共有しています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		送迎時、保護者同士の連携ができるよう努めています。	保護者からのご希望により父母の会の活動はありませんが、様々な機会に保護者同士の連携ができるように支援に努めます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談しやすい環境整備に努めるとともに、そつだ案内容によっては関係機関との迅速な連携を図っています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		年4回発行しています。	
	35	個人情報に十分注意している	○		関係法令等を厳守します。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		家庭と学校での利用者の様子を聞き取り、相違がある場合には、利用者の気持ちをくみ取るための工夫をしています。情報伝達については利用者、保護者に受け止め易い方法を工夫しています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		地域のボランティアを招いて、絵本の読み聞かせ、パネルシアター等を行っています。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		定期的避難訓練(土砂災害、火災、地震)を実施しています。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		法人内研修や外部研修に積極的に参加しています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束に該当するか否かを含め保護者に説明し、内容は個別支援計画に記載しています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		医師の指示書を提出していただいています。昼食はお弁当を持参していただいています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事業所内での事例については職員全員で確認し、いつでも職場内で供覧できるようにファイリングしています。	